

特定外来生物同定マニュアル

■ 両生類

- オオヒキガエル
- キューバズツキガエル
- コキーコヤスガエル
- ウシガエル
- シロアゴガエル



オオヒキガエル

分類: カエル目ヒキガエル科

学名: *Bufo marinus*

英名: Cane Toad, Giant Toad, Marine Toad

和名: オオヒキガエル

別名・流通名: オオヒキガエル、スリナムオオヒキガエル

原産地と分布: アメリカ合衆国から中南米(ブラジルまで)に原産。カリブ海諸島、南太平洋の諸島、オーストラリア、ニューギニア、東南アジア、台湾、日本(大東諸島・小笠原諸島、八重山諸島)に広く移入。

未判定外来生物: ヒキガエル属(*Bufo*属)全種。ただし、在来種ならびに5種(ヨーロッパミドリヒキガエル*Bufo viridis*、テキサスマドリヒキガエル*Bufo debilis*、ナンブヒキガエル*Bufo terrestris*、ガルフコーストヒキガエル*Bufo valliceps*、ロココヒキガエル(キャハンヒキガエル)*Bufo paracnemis*)を除く。

種類名証明書添付生物: なし。

形態的特徴: 鼻先から肛門までの長さは10~20cm。最大23cm。頭は割に大きく、骨状の突起が角張っていて目立つ。ヒキガエル属には、目の後ろに毒を出すためのコブ(耳腺)があるが、オオヒキガエルの耳栓は極端に大型で、菱形をしている。若い個体の肩には対になった模様があるが、雄や年をとった雌には見られない。



オオヒキガエル全身

特記事項: 在来のニホンヒキガエルやミヤコヒキガエルにやや似るが、巨大は耳線により区別できる。国外産のヒキガエル属には類似の種があるが、耳腺の形や大きさなどで区別される。

キューバズツキガエル

分類: カエル目アマガエル科

学名: *Osteopilus septentrionaris*

英名: Cuban Treefrog

和名: キューバズツキガエル

別名・流通名: キューバアマガエル、キューバズツキガエル、
キューバンツリーフロッグ

原産地と分布: キューバ、ケイマン諸島、バハマ諸島原産。
ハワイ、フロリダ、バージン諸島、コスタリカに侵入している。

未判定外来生物: ズツキガエル属(特定外来生物を除く)。

種類名証明書添付生物: ズツキガエル属。

形態的特徴: 樹上性のカエルとしては大型で、成熟個体の鼻先から肛門までの長さは雄で8.5cm、雌で10.2cm程度までだが、16.5cmにも達した雌が記録されている。四肢の指には吸盤がある。頭骨が皮膚と癒合しているため、体を反らせると頭部の後方に皮膚のしわができる。背面の皮膚は粗雑で多数の小さい隆起がある。背面は褐色であるが、赤っぽいものや緑色を帯びたものもある。背面全体が鮮やかな緑色になることはない。背面に虫食い状の斑紋を持ち後足の腿節と脛節に目立つ横縞を持つ個体が多いが、全く無地のものもある。みずかきの発達が悪く、特に前足ではほとんど認められない。



背面の縦帯が比較的明瞭な個体

特記事項: 意図的に輸入されることは多くないが、ペットとして販売されることもあった。狭い隙間に潜み、カエルとしては乾燥に強い非意図的な導入のおそれが高い。植木等の資材に留意し、観葉植物の葉の隙間や剥がれかけた樹皮と幹の隙間などにカエルが潜り込んでいないかどうか注意する。ジャンプ力が強く、飼育個体の逸走も予測される。なお、本種は「キューバアマガエル」と呼ばれることが多い。キューバ原産のアマガエル科は本種のみであり、「キューバアマガエル」と「キューバズツキガエル」は同一の種を指す。背面が褐色でざらついていること、成体では比較的大型であること、前足のみずかきがほとんど認められないこと等が特徴。ズツキガエル属の他種は本種に比較的類似しており、頭骨が皮膚と癒合していることが特徴である。

特定外来生物同定マニュアル

コキーコヤスガエル

分類: カエル目 ユビナガガエル科

学名: *Eleutherodactylus coqui*

英名: Puerto Rican Coqui

和名: コキーコヤスガエル

別名・流通名: プエルトリカン・コキー

原産地と分布: プエルトリコ原産。ハワイ、バハマ、ドミニカ共和国、ガラパゴス諸島、フロリダ、バージン諸島などに侵入している。

未判定外来生物: オンシツガエル *Eleutherodactylus planirostris*。

種類名証明書添付生物: コキーコヤスガエル、オンシツガエル。

形態的特徴: 成熟個体の鼻先から肛門までの長さは3~6cm程度。四肢はやや短く、指先には発達した吸盤がある。吻端は尖って見える。背面の皮膚は粗雑で多数の小さい隆起があるが、目立つイボや隆条はない。背面は褐色や灰色で、体側に淡黄色の縦帯を持つ個体や、背面正中線上に淡色の細い縦線を持つ個体がいるが、全く無地のものもいる(写真の個体は無地である)。目の後方から鼓膜の上端にかけて黒っぽい縦線を持つ個体が多い。目の虹彩の上半分が金色で下半分は赤銅色。前足のみずかきはなく、後足でもほとんど認められない。



背面の縦帯が不明瞭な個体

特記事項: 吸盤が発達しておりみずかきがほとんど認められないこと、四肢が短くややずんぐりした体型であること等が特徴。意図的に輸入されたことはほとんどない。ハワイ諸島の一部では高密度に生息することから、切花等の物資に紛れて非意図的に持ち込まれる可能性がある。未判定外来生物であるオンシツガエルはずっと小さく(鼻先から肛門まで1.6~3.2cm)、背面は褐色の地に濃色のまだらがある。温室の中でよく見られるためこの名がある。

ウシガエル

分類: カエル目アカガエル科

学名: *Rana catesbeiana*

英名: Bullfrog

和名: ウシガエル

別名・流通名: 食用ガエル、ブルフロッグ

原産地と分布: 北アメリカ東部(カナダ東南部からメキシコ中部に至る)。食用のために、西インド諸島やアメリカ合衆国西部、ヨーロッパ、台湾、韓国、日本等に広く(北海道南部から小笠原諸島、八重山諸島に至る)等に広く移入されている。

未判定外来生物: アカガエル属(*Rana*)のうち、ウシガエルを除いたウシガエル種群。ブロンズガエル*R. clamitans*、ブタゴエガエル*R. grylio*、リバーフロッグ*R. heckscheri*、カーペンターフロッグ*R. virgatipes*、ミンクフロッグ*R. septentrionalis*、フロリダボグフロッグ*R. okaloosae*の6種。

種類名証明書添付生物: ウシガエル種群。

形態的特徴: きわめて大型になるカエルで、成熟個体の鼻先から肛門までの長さは11~18cm。変態したばかりの子ガエルでも4~6cmある。後足のみずかきがよく発達しており、広がると目立つ。目の後ろから鼓膜の上縁を経て下向きに折れ曲がる皮膚のひだが明瞭。これより後方には皮膚のひだ(背側線隆条)がない。背面の皮膚はややざらつき、腹面は平滑。背面、腹面とも虫食い状の不規則な褐色斑を有するものも多く、大腿下面の黒斑が目立つ個体が多い。若い個体は背面に小さな黒斑が散らばっている。雄の鼓膜はきわめて大型で、目の直径の1.3~1.7倍に達する。雄の喉は黄色い。

全身



雄の頭部



特記事項: 食用や実験用として生きたまま流通している。中国から生きたまま冷蔵状態で輸入されており、それらはほとんど食用に供される。また国内では関東平野を中心に採取されており、これらは実験用などに供給されている。本種のような利用は今後も続くと見られる。鼓膜から後ろに延びる背側線隆条がなく、皮膚に大きなイボや隆起がないこと、後足のみずかきがよく発達していることが特徴。未判定外来生物であるウシガエル種群のカエルは、いずれも比較的大型で、後肢が長く後肢のみずかきが発達している。目の後ろから後方に向かう皮膚のひだ(背側線隆条)がウシガエルと同様に全くないもの(ブタゴエガエル等)、胴の中程まで見られるもの(ブロンズガエル等)がある。

シロアゴガエル

分類:カエル目アオガエル科

学名: *Polypedates leucomystax*

英名: White-lipped treefrog

和名: シロアゴガエル

別名・流通名: ムスジシロアゴガエル

原産地と分布: 東南アジア原産(ネパール、インド東部、海南島からスマトラ島、フィリピンに至る)。フィリピンのは外来という説もある。日本では沖縄島と周囲の伊江島など、宮古と周囲の伊良部島などに定着し、石垣島からも記録されている。

未判定外来生物: シロアゴガエル属(特定外来生物を除く)。

種類名証明書添付生物: シロアゴガエル属。

形態的特徴: 中型のカエルで、成熟個体の鼻先から肛門までの長さは5~7cm。体は比較的細長く、後足が長く痩せて見える。四肢の指には吸盤があり、木に登ることができる。目の後ろから鼓膜の上を経て後方に延びる隆条があり、この隆条の下縁に沿って体側に黒色の帯のある個体が多い。背面の皮膚はやや鮫肌状で、喉から胸の皮膚は平滑。背面は褐色で緑色になることはない。背面から足にかけて濃色の縦縞を数本持つものが多いが、縦縞の代わりに小さい黒点を持つものやほとんど無地のものもある。みずかきの発達が悪く、特に前足ではほとんど認められない。



ともに背面の縦帯が目立つ個体



特記事項: 意図的に輸入されることは多くない。狭い隙間に潜みカエルとしては乾燥に強いいため、非意図的な導入のおそれが高い。植木等の資材に留意し、観葉植物の葉の隙間や剥がれかけた樹皮と幹の隙間などにカエルが潜り込んでいないかどうか注意する。泡状の卵塊(淡褐色の7~8cmの楕円体)が植物などに混入する可能性もある。背面が褐色で目立つイボや隆起がないこと、体が細長く足も長く痩せて見えること、前足のみずかきがほとんど認められないこと等が特徴。シロアゴガエル属の各種は比較的似ており、類似したアオガエル属 *Rhacophorus* に比べ前足のみずかきが発達しない。踵に皮膚の突起を持つ種がいくつかある。